

85 周年会 番外編第 11 回

奈良まち歩き (第 2 回)

正倉院展と紅葉の鑑賞

今回は、2 度目の奈良のまち歩き。

前は少し歩きすぎたかなとの案内人の配慮がされたコース設定。最初の 2 日はよく晴れ気持ちよくまち歩きができた。最終日は雨模様であったが、幻想的な雰囲気もあり、また楽しむことができました。それでは今回も案内人のきめ細かな案内・説明を楽しむことにしましょう。

日時：2014 年 11 月 7 日(金)～9 日(日)

集合時間：11 月 7 日東京駅 6:30 頃

集合場所：東海道新幹線改札前

参加者：14 名参加

案内人：梅島雅夫さん(018)

懇親会：11 月 7 日「人吉」、8 日「蔵」

<まち歩き>：

■まち歩き行程

11 月 7 日：東京駅→久米寺→橿原神宮→当麻寺→奈良国立博物館での正倉院展→懇親会→11 月 8 日：長谷寺→室生寺→多武峠と談山神社→懇親会→11 月 9 日：各自観光→平等院→萬福寺→京都駅周辺観光→新幹線内で懇親会→東京駅で解散

参加者：14 名

歩数：11 月 9 日は 20,000 歩、8 日は 15,000 歩(ただし階段の上り下りが多い)、9 日は 13,000～18,000 歩(各人の行動範囲による)。3 日間合計で約 50,000 歩以上

<懇親会>：

参加者：14 名(8 日は+1 名)

<スタート>

それではスタートです。写真を見ながら楽

しんでください。なお、説明には案内人の梅島さん作成資料と武馬さんの補足資料と皆さんからのメールから引用しているところが多いです。写真協力は、吉田さん、梅島さん、荻原さん、田中さんと小林のものです。

挿入短歌は、松木さん作のものです。

11 月 7 日(金)

東京 6 時 43 分発のぞみ 201 号 京都着 9 時 1 分同発 9 時 15 分特急八木乗換橿原神宮前着 10 時 16 分。久米寺に加え、橿原神宮へ。昼食。12 時 3 分発当麻寺へ。12 時 15 分着。密教と浄土教の混在する中将姫の寺を見学。14 時 31 分当麻寺駅発。近鉄奈良着 15 時 47 分。チェックイン後、正倉院展拝観。18 時より、人吉で夕食。

① 京都・奈良に向けて

東京駅 6 時 43 分発で 8 名・品川で 2 名・新横浜で 1 名の 11 名で出発。3 名は仕事の都合で別行動。

天気はよく富士山が車窓から見えた。



京都からは賢島行きの特急を利用。特急券売り場に 10 人以上の列。やむを得ず、特急券売機で 8 名・4 名と 2 回に分けて購入。発車 3 分前にやっと購入。案内人ほっとする。

橿原神宮前駅に着き、昼食は相談の結果、駅構内の食堂でとることになる。11 時 15 分に予約を入れ、荷物をロッカーに入れ、まずは久米寺へ向かう。

② 久米寺

10 分足らずで久米寺到着。



＜解説＞本尊は薬師如来坐像。開基は聖徳太子の弟の来目皇子（くめのおうじ）ともいうが未詳。『扶桑略記』や『今昔物語集』においては、体得した飛行術で飛行中に、川で洗濯している女性のふくらはぎに見とれたため、宝力を失って地上に落ちたという久米仙人により創建されたと伝えられる。大和七福八宝めぐりの一つに数えられる。



本堂（上）と多宝堂（下）



国宝の本堂他寺内を散策し、久米の仙人の絵馬を見る。



まだ時間があるので、橿原神宮へ行くことになる。

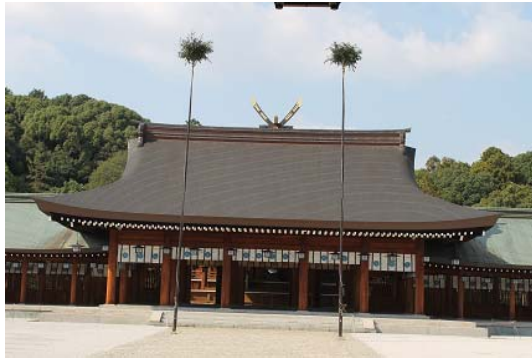
③ 橿原神宮

橿原神宮は、神武天皇を祀っている神社で、紀元 2,600 年に境内内部を大きく改装し現在に至っている。



明治神宮よりはるかに大きい。七五三の一週間前でもあり、お宮参りの家族づれが数組参拝していた。





12 時 20 分過ぎ駅に到着。

④ 昼食

さっそく予約済の駅構内の食堂で昼食。伊勢うどんの評判は良くなかった。ビールも注文し、あわただしく終了。



・駅構内の店賑はへる只中に伊勢うどんとふやはらかきを食む

12 時 3 分発の電車で当麻寺へ向かう。

⑤ 当麻寺

当麻寺駅から当麻寺（たいまでら）への道の両側の家には塀の角に七福神の瓦が乗っている。事前に葛城市役所に確認したところ、歴史はなく瓦業者の売込みであろうとのこと。



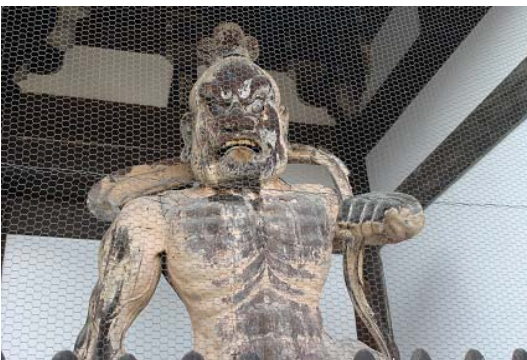
国道の手前に、当麻蹴速（たいまのけはや）を祀った石碑がある。



垂仁天皇の時代、蹴速は野見宿禰(のみのすくね)と相撲を取り、敗れ殺されたが、共に桜井市の相撲神社に祀られている。国道の手前から二上山がよく見える。



時間と根性があれば上りたいところ。
国道を渡り、当麻寺仁王門前へ。



今回は時間もあまりないので、奥の院はスルー。日本最古の国宝の梵鐘（白鳳時代）をまず見る。



本堂で拝観料を支払い、本堂・金堂・講堂の順で拝観。



その後、日本最古の三重の塔（東塔・西塔）を見学。



二つの塔の違いを見た後、中之坊特別拝観、天井絵を見ることに。ちなみに、当麻寺の国宝は、本堂・弥勒菩薩像・当麻曼荼羅・厨子・須弥壇・東西両塔・梵鐘と豊富で見応えは十分です。

中之坊の天井絵は現代作家が描いたもので、歴史的価値はない。畳で寝ころんでしばし休憩。



＜解説＞当麻寺の境内には、中将姫を解説した案内板が何枚も立っている。そこには、以下のような説明がなされている。「中将姫は、奈良時代の右大臣藤原豊成公の娘で、幼くして母を失い、継母に育てられました。しかし、継母から嫌われ、ひばり山に捨てられてしまいました。その後、父と再会し一度は都に戻りましたが、姫の願いにより当麻寺に入り、称讃浄土經の一千巻の写經を達成し、十七歳で中将法如として仏門に入り曼荼羅（諸仏の悟りの境地を描いた絵図）を織ることを決意し、百駄の蓮茎を集めて蓮糸を繰り、これを井戸に浸すと糸は五色に染まりました。そしてその蓮糸を、一夜にして一丈五尺（約4m四方）もの蓮糸曼荼羅を織り上げました。姫が二十九歳の春、雲間から一丈の光明とともに、阿弥陀如来を始めとする二十五菩薩が来迎され、姫は、西方極楽浄土へ向かわれたと伝えられています。「練供養」は、その伝承を再現したもので、毎年五月十四日に当麻寺において行われています。」

14時31分発の電車で、橿原神宮駅へ戻る。ロッカーの荷物を取り出し急行で西大寺乗換近鉄奈良へ向かう。15時57分着。宿

泊先のサンルート奈良ホテルへ着き、チェックイン後しばらく休憩する。16時30分、正倉院展に出発予定。

⑥ 正倉院展拝観

奈良国立博物館で開催されている正倉院展に17時少し前に出かける。ホテルで購入すると待たずに入場できると案内人が入場券(1,100円)を手配してくれた。途中、夕日の猿沢池の写真を撮る。



興福寺の五重塔も夕日に薄赤く染まっている。



現地での入場までの待ち時間は0分で、待つことなく入場できた。今回は天皇皇后両陛下傘寿記念で特別出展もあるが、一部東京で同主旨での国宝展が開催されていて一部はそちらにあるという。東大寺での法要で用いられたものが展示されている。伎楽面のとがった耳を持つ半獣相の崑崙や大きな鼻を持つ赤ら顔で酔って眠たげな酔胡従、聖武天皇がはかれた赤い皮の色の左右同じ形の靴、納御礼履(のうのごらいり)、文字や絵が霞んでいるが見ることが

できる楽器の桑木阮咸(くわのきのげんかん)など。案内人は双眼鏡を持参し、詳細部分を楽しんでいる。次回見習うべし。鳥毛立女屏風(とりげりつじょのびょうぶ)などを見学。鳥毛立女屏風はヤマドリ(山ドリ)の羽毛で飾り付けたようだ。ここには6扇のうち、2, 4, 5, 6扇の4扇が展示されている。残り二つは東京に。下図はインターネットより。第4扇部分。



鋭く折れ曲がった手鐸の形はその後のなぎなたのもとになったとの説明があった。他にもいろいろ武具、鏡、地図・文書、経巻などが展示されていたが、ウェブで紹介されているのでそちらを参照してください。なお、今回の正倉院展は66回目なので、我々世代の生まれたころから毎年秋に実施されている。

近鉄奈良駅までバスで移動し、そこからお土産屋の並んだアーケードの下を懇親会のお店まで歩く。

⑦ 夕食・懇親会「人吉」

近鉄奈良駅のそばで昨年の奈良まち歩きでも楽しんだ家庭の味のお店。



昨年同様のスピードで飲み始めている。
「人吉」というイモ焼酎を一升空ける。他にもビールや日本酒を多量飲酒。



さて、二次会とは店主に聞くとそばに昭和の香りの残るお店「一楽」があるということで店主に導かれて移動。



この辺から案内人含め一部の人から記憶がなくなり始めている。

こちらの店主は、何もないと恐縮しているが、構うことなく焼酎を頼み、つまみには银杏を頼む。



先客の男女2名は端に移り、東京からのお客様の騒音を我慢しているようだ。焼酎2本を頼んだが飲みきれないので、残りをお持ち帰りとさせてもらった。

1日目からこんなに頑張っで飲んで明日からは平気なのか心配。

歩いて10分ほどでホテルに到着して、各自の部屋でお休み。良い満月でした。



・なら町を抜けて見上ぐる満月のややに小さき霜月七日

11月8日（土）

観光順序が変更になる。近鉄奈良発、長谷寺駅で下車し、長谷寺へ。臨時バスで室生寺へ移動。昼食をとり、バスの車窓から磨崖仏を見て室生口大野駅で近鉄に乗り、桜井駅へ。14時45分桜井発バスで、多武峰（とうのみね）へ。奈良県で最も美しい談山（たんざん）神社の紅葉を見る。16時12分多武峰発約25分で桜井へ。16時57分JR桜井発。17時30分JR奈良着。そのまま、酒処蔵へ。関東炊きの店。朝早く猿沢の池を散策すると、興福寺が猿沢の池に写っている。



少し早目の電車に乗れたので当初の予定を変更して、まず長谷寺へ。

⑧ 長谷寺

駅を降りてしばらく歩いていく。途中、軒下で大根を干していて、すでに干からびたものと最近干した水気たっぷりの大根が妙に対照的であった。



坂道の小川の流れを利用して小さな水車発電もあり、この仕掛けが安く普及すると地方では電力対策にもなるかなと思いながら歩いていく。



入口の仁王門から本堂までは折れ曲がった399段の登廊（のぼりろう、屋根付きの階段）を昇っていく。





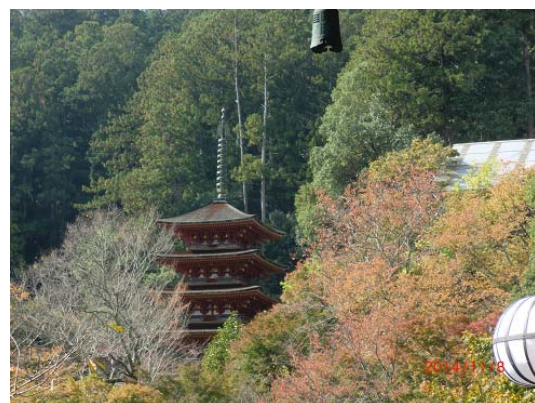
国宝の本堂を見学。



ご本尊は、十一面観世音菩薩で楠の霊木を三日間で造りあげたと言われている。額は「大悲閣」と書かれている。



懸造りの舞台に出て、よく晴れた天気感謝し涼しい風の中で周辺の景色を楽しむ。



ここからは臨時バスに乗り、室生寺に向かう。

⑨ 室生寺

女人禁制の高野山に対して、女人の入山が許されたことから「女人高野」と呼ばれ、これは室生寺の代名詞にもなっている。典型的な山岳寺院。



室生川に架かる朱塗りの太鼓橋を渡ると、正面が本坊。



右方にしばらく行くと仁王門がある。



仁王門を過ぎ、最初の急な石段（鎧坂）を上ると、正面に金堂（平安時代、国宝）、左に弥勒堂（鎌倉時代、重文）がある。この金堂は正面には入口がなく、左側に入り

口が作られている。
そのため左側の屋根が少し折れ曲がっていると案内人が説明。



金堂見学。一本造りのご本尊・釈迦如来立像（平安初期・国宝）を中心に、右に薬師如来像、地蔵菩薩像、左に文殊菩薩像、十一面観音菩薩像の各像が並ぶ。その前には運慶作と言われる十二神将像が一行に並ぶ。

弥勒堂は外から見学。



さらに石段を上ると如意輪観音を本尊とする本堂（灌頂堂）（鎌倉時代、国宝）がある。



左後方の石段上に五重塔（平安時代初期、国宝）がある。16.1メートル。



頂上の相輪が珍しい。普通は水煙であるのが、ここのは宝瓶を載せて宝鐸を吊りめぐらせて天蓋を作っている。



平成 10 年の台風で大きな損傷を受け、平成 12 年に修復された。

この五重塔の屋根の大きさは皆同じ大きさだと案内人が説明する。下から見上げたり、少し高いところから見下ろしたりするが、どうしても下の方が大きいと主張する数人がいて、結論は出ていない。



五重塔脇から賽の河原を過ぎ、さらに 400

段近い石段を上る。

・水枯れの賽の河原に石ふたつ積み置きて
来つ秋の形見に

空海を祀る奥の院 御影堂（みえどう、室
町時代前期、重文）に達する。少し休憩を
する。



七重石塔も見える。ここまで頑張った人
が4名いた。お疲れ様でした。



⑩ 昼食

案内人が、旅館の人と話をしている。



写真家の土門拳が泊まった橋本屋旅館だ
と判明。昼食を遅い時間なのかまけてくれ
るというし、土門拳が泊まった部屋も見せ
てくれるというので、団体に二階に上がり
昼食をとる。



この部屋からの室生寺の紅葉の景色は素
晴らしい。



雪景色を撮りたいという執念で土門拳は
数十回も宿泊したそうだ。精進料理はおい
しかった。



室生寺のバス停から臨時バスに乗る。室生川に沿ってバスは走っていく。大野寺、磨崖仏見学は今回無となったが、バスの車窓から磨崖仏を見る。



室生口大野駅で降り、近鉄に乗って桜井駅へ移動。

⑪ 多武峠と談山神社

14時45分桜井発のバスで、多武峰（とうのみね）経由、奈良県で最も美しい紅葉の談山（たんざん）神社の入り口のバス停に着く。ここからまたしばらく歩いていく。まず十三重塔（室町時代、重文）を見学。



木造十三重塔としては世界唯一のもの。ここは中大兄皇子(天智天皇)と中臣鎌子(藤原鎌足)が蘇我入鹿を討つための談合をしたところと言われる。神社の裏手には談らい山(かたらいやま)566mと御破裂山607mがある。



パワースポットとして、龍が谷の古代「岩くら」と「龍神社」を参拝する。



蘇我入鹿の首が切り飛ばされている「曾我入鹿誅戮図」は一見の価値あり。

・蘇我入鹿の首飛ぶ絵巻見しからに夢に現はるることもありなむ

Sさんは、談山神社のこの絵巻に見入ってしまい、バス停に少し早く集まるのに遅れてしまった。そのため他の人たちが全員座れたのにSさんだけ座れなかった。仕方なく立っていると、若い女性に生まれて初めて席を譲られる経験をしたようです・・(Sさん曰く、あれは年寄りと思われたのでなく、ご一行様の真ん中に座っているのがいやで、譲ってくれたと解釈しています) バスで桜井駅に戻り、JRでJR奈良まで乗り換えなしで移動。そこからホテルのそばの「蔵」という居酒屋にそのまま向かう。

⑨夕食



「蔵」の1階にはカウンターがコの字に作られていて、中から食べ物を出してくれる。1階のカウンターを15人で占拠する。



ビールに続き、また一升瓶のお酒が出た。「風の森」という粋な名前。



一本飲み終え、ホッピーを飲む人、ワイン

を飲む人、お爛酒を飲む人いろいろでした。看板メニューの関東炊きのおでんも楽しむ。



仕上げには鯖寿司が出てきて、皆さん今までに食べたなかでもっとも美味しいと喜びながら本日は終了。



11月9日（日）

朝、奈良町散歩。チェックアウト後 11 時 24 分 J R 奈良発、11 時 54 分宇治着。平等院の見学と昼食。13 時 39 分宇治駅発。13 時 42 分黄檗着。中国風寺院隠元禅師の萬福寺を見学。15 時 33 分黄檗発 15 時 54 分京都着。京都発 16:45 のぞみ 176 号、19:03 東京着

⑫ 各自奈良町周辺観光

<報告者グループの紹介>

・正倉院

小雨が降っている。朝食時、一部の人たちは正倉院に行こうと相談し、9 時前に出かける。正倉院そばでタクシーを降りて正倉院の入り口に歩いていく。なんと休日であるが、特別展示中のため開館するが 10:00～とのこと。早すぎた。仕方がないので、周囲を歩きながら。この辺の柵から覗けば

見えるのではないかと柵に登る。見えた。



全体は見えないが来たという証拠の写真にはなる。次の転害門（てがいもん）に向かっていくと、向こうから仲間の女性がやってきた。正倉院の状況を説明。



・雨のなか来る一団を近づきて見れば友らと知れる可笑しさ



・正倉院近き木下に雨の朝鹿らは丸く座り
ゐたりけり

・ 転害門

転害門は国宝で、正倉院の西側にあり、三間一戸八脚門の形式をもつ堂々とした門。



<解説>平重衡の兵火（1180年）、三好・松永の戦い（1567年）の2回の戦火にも焼け残った寺内で数少ない建物のひとつで、天平時代の東大寺の伽藍建築を想像できる唯一の遺構。鎌倉時代の修理で改変されているが、基本的には奈良時代の建物である。

柱の古木が少しねじれていると案内人は説明する。



バスで近鉄奈良駅に戻り、漬物のお土産を買う。





その後は、別々の行動になるが、報告者と一部の人はホテルそばの元興寺見学。

・元興寺：世界遺産

南都七大寺の1つに数えられる寺院。蘇我馬子が飛鳥に建立した、日本最古の本格的仏教寺院である法興寺がその前身である。法興寺は平城京遷都に伴って飛鳥から新都へ移転し、元興寺となった。今回は時間もなくて門からのぞいただけであった。今回元興寺の内部を見学。



まず、国宝の極楽堂（極楽坊本堂）に靴を脱いで上がって見学。パンフレットには、木鼻、卷斗、肘木、大斗などの部材の名称が書かれている。



奥にはやはり国宝の禅室があるが立ち入りできない。

次に収蔵庫（宝物殿）に入り、板絵の智光曼荼羅（ちこうまんだら：縦 217.0 cm 横 195.0 cm）、木材や瓦、仏像などを見学。しかし、国宝の五重小塔（奈良時代）が展示されていない。後で聞くと現在東京の国宝展に行っているという。

境内には小雨の中しっとりと落ち着いた雰囲気のある苔むした石塔群が列をなしている。



かえる石という名の大坂城の蛙石の奇岩が安置されている。福かえる、無事かえるの名石だ。



ホテルに戻り、京都への移動までしばらく休憩。最後に記念写真をロビーでとることにして、案内人がホテルの係りの人に撮影を頼む。案内人の携帯に仕事の電話がかかり、その対応やカメラの準備でバタバタとしたが無事記念写真終了。



雨なので JR 奈良駅に歩いて向かう人、タクシーで向かう人で分かれる。最終タクシーに乗って JR 奈良駅そばに来たところでタクシー無線でお客さんがロビーに携帯を忘れたと連絡有。どうもばたばたした時、案内人が忘れてしまったようだ。時間もあまりないがホテルに戻り、携帯を確保。駅で案内人に手渡される。良かった。ある人が言う。「最後の携帯事件は同行者とすべてを見ていた神仏の萬分の一のお返しでしょう。」

⑬ 平等院

宇治駅で降り、荷物を預けて平等院に向かう。



平等院の庭園を歩きながら写真を撮る。案内人が、ここからの写真を撮ると鳳凰の頭部から尾に向けたイメージの建物が撮れるという。



正面から鳳凰堂全景を撮影。





鳳凰堂内部見学もできるようであるが、待ち時間が2時間等予約を必要とするので今回は見学なし。

雨の平等院は何だかとても良かったとの感想有。



平等院ミュージアム鳳翔館を見学。古い鳳凰一對の飾りが展示されている。均整のとれた姿だ。雲に乗りさまざまな楽器を奏で舞っている雲中供養菩薩が幻想的。それぞれが異なる形態であるので、じっくりとみるためには時間がかかる。ビデオでの紹介があったので、阿弥陀如来坐像などをビデオから撮影した。



(上の6つはビデオから)
帰りに現在の鳳凰堂に飾られている鳳凰
を写真に撮る。



＜解説＞飛鳥・奈良・平安前期に広まった
仏教は、現世での救済を求めるものであつた。
平等院が創建された平安時代後期になると、
日本では「末法思想」が広く信じられていた。
末法思想とは、釈尊の入滅から2,000年目
以降は仏法が廃れるという思想である。しか
し、天災人災が続いたため人々の不安は一層
深まり、終末論的な思想として捉えられるよ
うになり、この不安から逃れるための厭世的
な思想として捉えられるようになる。仏教も
現世での救済から来世での救済に変わってい
った。平等院が創建された永承7年(1052年)
は、当時の思想ではまさに「末法」の元年に
当たっており、当時の貴族は極楽往生を願
い、西方極楽浄土の教主とされる阿弥陀如
来を本尊とする仏堂を盛んに造営した。

⑭ 昼食

平等院見学の後、近くのお店で昼食。そばを
食べる人が多い。茶ざるそばや茶ざるそ
ば定食など時間がかかるのでできるだけ
同じものを頼んど、お店の人に言われる。



⑮ 萬福寺

JR で一駅の黄檗（おうばく）駅着。中国風寺院隠元禅師の萬福寺を見学する。



日本の一般的な仏教寺院とは異なった景観を有する。仏像などは中国様式（明時代末期頃の様式）でつくられ、境内は日本の多くの寺院とは異なった空間を形成している。



＜解説＞隠元の来日と萬福寺の開創によって、新しい禅がもたらされただけでなく、さまざまな中国文化が日本にもたらされた。隠元の名に由来するインゲンマメのほか、孟宗竹、スイカ、レンコンなどをもたらしたのも隠元だといわれている。





⑩ 京都での各自の時間つぶし

・東寺

女性を中心に東寺を見学。お寺情報よりも食べ物の方。京都東寺の直ぐ横の普通の和菓子屋さんの東寺餅・・・最高でした！！汗びっしょりで行った甲斐がありました。もちろん、お庭や五重塔 etc. は素晴らしかったですよ！

- ・東福寺の（多少の）紅葉の樹海を楽しみました。
- ・男性のほとんどの人は京都駅ビル内の居酒屋で時間つぶし。



帰りには551蓬萊の豚まんをお土産に購入する人多数。

⑪ 新幹線車中での懇親会

車中向かい合いの席に人たちは早速最後の懇親を開始。帰りは短く感じたことでしょう。一部の人々は東京駅のラーメン横丁に向かう。

次回への期待・希望：

- ・改めて来年も是非、飛鳥地方を自転車で駆け巡りたいと強く感じました。
- ・二日ともよく晴れ清々しい秋空だったし、帰りの日は少しぐずついたけど、それも幻想的な風景でした。まるで修学旅行のようで大変楽しい奈良行でした。薄れていた思い出も改めて記憶に留められて嬉しかったです。
- ・これで2年連続の奈良行、できることなら3年目で締めくくって頂けると嬉しいです。

以上